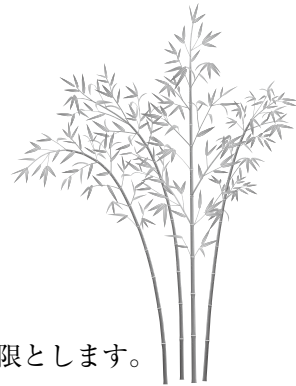


竹林の整備に係る補助事業の要望調査を行います

- 事業名
たけのこ・竹材生産支援事業
- 事業内容
放置された竹林の間伐を行うことで、竹林の整備、園地化をし、たけのこおよび竹材の安定した生産を図るための事業です。
- 補助対象経費
竹林整備に関する補助対象経費は、立竹の伐採、整理（片付け）、施肥および簡易作業道の開設などの取り組みに必要な経費です。
- 申請するための条件
 - ・3年間以上継続してたけのこ、または竹材の生産を行うことが確実であること
 - ・受益戸数3戸以上であること
 - ・10a以上の竹林であること
 - ・既に園地化され、通常の親竹管理としての伐竹ではないこと
- 事業費の算出及び補助率
現地調査を行い、事業費算出表により、事業費を算出します。
補助率については、算出した事業費の50％以内です。
また、簡易作業道の開設については、定額400円／mです。ただし、ha当たり200mを上限とします。
- 要望受付
当事業を活用し、竹林整備をお考えの方は、上記条件などをお読みいただき、5月19日（金）までに、ご相談ください。



問い合わせ先 総合支所 農林振興課 林務係 ☎0968・34・3111

第15回里山美術展開催

「アートの原点はふるさとにあり」をテーマに開催され、生活の中からあふれ出た作品で彩られます。
今回は福岡県在住の永 武さん（絵画・インスタレーション）や菊水ひまわり園の子ども達らの作品も展示されます。
物産の販売や里山レストラン、出展作家の作品が当たるスタンプラリーなどイベントが盛りだくさんです。
皆さん、ぜひお越しください。

と き 5月2日（火）～6日（土）
午前10時～午後5時（最終日は午後4時まで）
と ころ 江田船山古墳公園内 肥後民家村一帯



問い合わせ先 里山楽縁企画 池田 090・5472・5320

歴史調査の楽しみ方

江 栗 城 跡

43

大田 幸博
（元・菊水町史編纂委員会副委員長）

菊

水地区で、最大規模の城域面積を有する江栗城跡の調査が、終りに近づきました。広報の連載も、43回を数え、感慨深いものがあります。現在、城跡の尻尾にあたる南西端を調査しています。登城道の入口です。

東小谷の最終調査

城尾地区の北西端を仕切る堀切は、地形の大きな括れ部を生かした防禦施設です。ここから、北東側と南西側に谷部が下っています。問題は、北東側の谷部です。最下部近くから、降雨時は、水の流れるV字形の小谷（亀裂地形）に変化しています。これを東小谷と称します。ところが、谷頭部分で、登城道が消えた状態になるのです。登城道が崩壊したのではと、考えた時期もありました。『江栗城跡39』の掲載図面では、破線で描いている部分です。

そこで、シルバーの方が、一面に繁茂した下草を刈られ、折り重なる倒木を整理されました。その結果、集落からの登城道は一旦、谷頭に下って、そこから凝灰岩の岩坂を上がって、現存の道へ繋がっている事が分かりました。一方で、小谷をそのまま下るルートも考えましたが、現況から、それは無い様です。道の痕跡は、ありませんでした。

湧水地

『江栗城跡42』で報告しましたが、第二衛生センター・南側進入路の東肩部に残っています。今回の掲載図面を見ますと、東小谷を下る水路とは、道路を挟んで真正面にあります。

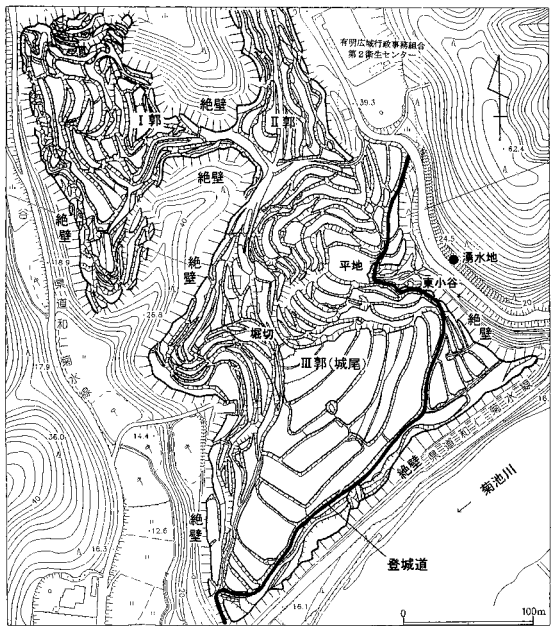
有事の際は、この東小谷を駆け下れば、水を得る事が出来た訳です。湧水は、凝灰岩の岩肌から浸み出しており、現在も、水溜まりがあります。城内には、貯水池の大穴がありますが、これを補う水源であったと考えられます。貯水池が、雨水を溜める性格のもので、すから、湧水地の役割は、大きかったと思われる。

平地

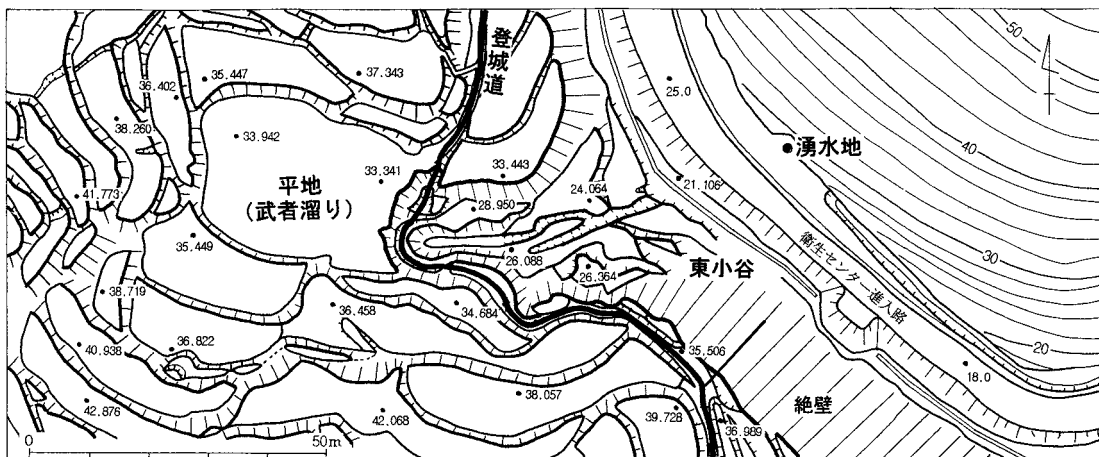
東小谷から見えて、真上にあります。長方形形状の平地で、追地を造成したものです。東西36・5m×南北26・5×22mで、熊笹の群生地でした。ここもシルバーの方に、お世話になりました。

この地は、城の裏側で、登城道の出口にあたります。守備兵の武者溜りと推定されます。

江栗城跡の縄張りの特異性



江栗城跡 縄張り図



東小谷周辺図